



六四
1607
2



好色一代男

卷二目録

- 十四歳 仁王堂の具
十五歳 髪を剃りてお捨りをな世
十六歳 京川原町の事
十七歳 警戒の事
十八歳 本郷町の事
十九歳 生家の事
二十歳 仕事の事
又は工所の事



木母板の寢道具

其の十四の春を色を落とすて、三更の朝日も。
神をもくせうきて、世人も猪（いのし）子もばつま
の。碑（ひ）にも車（くるま）づて、初瀬（はつせ）みあらそーと。
一人さすれ石（いし）ははいの井（いのい）の合（あわ）せに、博（ひろ）城（じょう）で
人（ひと）が心（こころ）をそよごし、貫（ぬき）之（の）諱（え）一（いっ）極（きわ）め、まこと
山（さん）づく。誓（ちか）せがさりとくをばく。多（おほ）なまき事（こと）と
ちる事（こと）。川（かわ）走（はし）うと、ほゞやあを國（くに）代（しろ）用（もち）て、又（また）度（たび）
かよまくの事（こと）。並（なが）くと、草（くさ）事（こと）。壁（かべ）一（いっ）紀（き）の思（おも）ひ、
色（いろ）一（いっ）紀（き）の思（おも）ひ。楊井（ようい）の里（さと）はうき。十市（じゅういちし）布（ふ）衣（ぎ）若（わらわ）
神（かみ）や一（いっ）神（かみ）やか源（みな）へて、まゆみ（まゆみ）とくと、櫻（さくら）橋（ばし）山（さん）

禁（きん）中（ちゆう）正（まさ）月（つき）の草（くさ）の庭（にわ）折（ちぎ）りそ養（くわ）き穂（ほ）の今（いま）
かづく半（はん）の青（せい）ひと、里（さと）の童（わらわ）那（な）所（ところ）も董（とう）だう
家（いえ）など（など）して、董（とう）傳（つた）よりなとこ豆（まめ）とくの物（もの）とせん。
生（なま）さざりと影（かげ）根（ね）どくとくとく、今（いま）と今（いま）とこもん。
腸（はら）うすの下（した）人（ひと）の風（かぜ）情（じやう）代（しろ）げぬ（ぬ）とくをう樂（うら）聲（こゑ）緒（はじ）
あ（あ）き暁（あけ）日（ひ）あ（あ）れも（も）う、編（ひら）笠（かさ）の柳（やなぎ）す、通（うつ）る船（ふね）
尋（さぐ）ね（ね）きる（きる）お（お）げ里（さと）ハ仁（じん）王（おう）宮（みや）と（と）て、京（きょう）大（だい）坂（さか）の船（ふね）
志（し）づび宿（しゆく）ると、お（お）か川（かわ）ゆ（ゆ）て、城（じょう）入り（いり）ぬ（ぬ）と、舍（や）ま（ま）
い（い）と（と）ば（ば）宿（しゆく）一（いっ）夜（よ）と（と）た（た）ひ（ひ）す（す）、き（き）な（な）ま（ま）か（か）と、舍（や）ま（ま）
い（い）と（と）ば（ば）宿（しゆく）一（いっ）夜（よ）と（と）た（た）ひ（ひ）す（す）、き（き）な（な）ま（ま）か（か）と、舍（や）ま（ま）

多岐道を歩く。旦月川深之みれ。花浪之平野。袖鳴
三五而後、いはきをたゞ。詠笑。きくの。宍角酒か
」て。あんがく。角内。九事成峰。上。よろこび物
と。極八龍生て。盡かど。せり。せり。云盡。
文行また。月。うめ。たが。せら。と。せり。せり。
はよき。え。食。寝。具。ぬ。よ。鳥。春
はよん蒲固。中。せんごん。も。本。刀枕。夏。と。う。が。
蚊。そ。う。ま。と。て。枕。竹。ひ。り。桶。城。煙。セ。床。烟。と
馬。ぐ。毛。を。伽羅。の。み。ら。り。て。不。づ。つ。す。也。よ。絆。
ひ。ざ。ん。あ。さ。わ。い。ば。ま。く。用。を。な。く。そ。も。成。う。ら。金。す。く。
城。一。非。く。そ。も。を。有。え。勤。す。き。む。毛。一。く。

思ひて。もとより。誰が。うめり。づの。ゆく。と。ゆわ
せうや。懸かう。(みけじぐ)。と。年を。何。りん。我そも
く。ハ。家。り。植。二。而。あ。み。う。り。が。苗。う。き。の。花。ハ。え。み
ま。う。り。宣。鷦。の。茎。石。も。ま。き。み。ま。と。い。脩。中。の。宮。内。漫。散。れ
金。昆。羅。ゆ。ゆ。事。を。う。り。づ。く。走。ば。と。す。
源。重。家。又。こ。内。の。柳。原。被。置。ゆ。ま。で。今。井。あ。食。奉。の。
生。身。所。死。そ。る。か。す。ゆ。も。又。み。が。ま。し。け。う。れ。そ
ハ。懐。の。掌。仁。方。ま。め。山。の。ま。ら。方。よ。そ。ち。鄰。の。ば。通。好。
是。ハ。能。子。の。う。き。滩。を。御。よ。と。い。げ。あ。み。持。色。て
長。い。劍。う。さ。れ。と。つ。事。を。一。本。附。い。序。山。附。て。紫。
カ。り。て。画。く。く。ま。う。き。一。所。ま。と。ま。で。や。浦。人。久。



情剛私とぞうめにて、他事も凡ち別討。情なき六
扇道ありて、がくゆなりまでと遣れ。皆う終ふへえ。
情とぞ思ひよほんそ心小さま人ゆりと東へと尋ね
ゆきく。鑿も詫ひ一一代み。皆ばつゝ。三郎人一を
やとひ。もと生の家窓も。窓も。窓も。窓も。窓も。
かく生の窓も。窓も。窓も。窓も。窓も。窓も。
かく生の窓も。窓も。窓も。窓も。窓も。窓も。
自生財と思はばとアム。心いと生の月日。身
金性の者。有封ゆ。入主と経年。セキハ。仕合と門内。金
財財と。亦四乃會。我六十。勤ひ。傳物も。之る
一産ゆ。此せんそく。ハ。田捨う。下也。

卷之二
發きてを捨て世

さばくやうすが世の中か。母家没心かうすとあら
なきと。故人の語のぬ則深か別まことの両度省寔
生家ゆき成色を事ゆをかり。禮経りて。は父と水を
なきよしめ。うほ。是も今記。うそえふ。猶とよふ
物う事。うきさげ。蘇玉おきて。其とねよかがう。
庵の論。性根をうけ。うりせの戸ゆく。済と
不と。用心の自身。嘉ゆて。人軒とねむせり。
い川とゆく。有氣ハ。高天より。下りて。日出
西の濱。東。神鳴乃。夕経時。ひる。日出まで。慶
一事。こうと。夏冬と。ヤクと起。うなど。今。往く。

獨身ハと悲。——佛の道外あらが。——後死の無れを
ゆめ。もと。せめ。と。御船と。元来。商ひ。くい。波多。ホ
ト。桂。い。波。十石。盤。と。カ。ん。だ。銀。す。刀。數。も
ハ。持。か。う。雜。一。事。う。り。叶。方。手。代。ホ。す。と
ハ。い。と。く。我。中。ひ。て。相。と。屬。声。を。な。大。船。を
機。纏。と。と。じ。や。一。き。車。を。運。も。と。あ。く。り。と。ま
下。主。ち。の。叫。——。い。れ。と。風。あ。く。ら。船。て。居。き。ら。の。と。と
名。の。三。二。種。な。——。我。は。御。代。引。席。の。車。を。が。く。り。
舊。禮。の。ば。き。く。中。板。子。舉。て。男。の。そ。ら。ま。て。跡。を
か。く。と。や。筋。を。ち。の。包。う。く。て。ま。ち。の。脣。衣。を。く。
我。と。ハ。免。か。一。ざ。ん。か。や。か。つ。セ。ー。や。と。ち。く。と

吊ひ。甚好子共のなわをみべ事は。空事なまく。す
内をかす食。物あまく。くねもを。走く。そ
が。松原かすむ。書は。走く。わが心。すくと。が。程
小早ゆき。かく。行き。内。八十カ年。も。其二月六日。も。
角とも入く。ねまのまく。析すきて。宝すなど。儀て
石山か。詠で。多野ト。移す。其月八四月十七日。
湖水。一。深涼。一。く。水色のま。唯子か。と。是
余ふ。生まの。蓑。と。かまく。み。縫。せ。う。い。纏。の。中。幅。余
も。と。ば。今。う。や。隊。う。き。懸。多。拭。渾。筆。う。ら。ば。人
と。ま。そ。次。と。東。く。つ。女。ま。と。水。く。石。母。と。引
う。お。ほ。う。づ。と。め。う。づ。は。玉。と。さ。う。と。の。く。み。か
み。

う。う。り。腰。ち。と。な。じ。く。み。寢。か。て。た。く。わ。ー。物。語。と。う
ま。ト。ミ。う。所。鉢。戸。ゆ。五。添。何。せ。よ。そ。く。み。國。を
と。く。で。三。度。ま。ぐ。三。ハ。う。ま。か。な。ー。ま。ま。と。く。代
腸。血。も。わ。か。ま。を。傷。血。ま。き。黒。髪。と。ま。り。で。う。ま。を。亂
さ。で。う。ま。う。れ。う。れ。ー。き。な。禁。カ。り。み。世。ふ。う。ま。を。亂
か。と。な。じ。へ。ぞ。思。う。ま。く。身。う。び。う。と。今。の。事。と。も
と。の。程。か。の。女。人。巨。き。く。身。う。び。う。と。今。の。事。と。も
か。と。の。程。か。の。物。の。柄。か。鷲。く。き。我。う。き。と。ま。み。か。く。裂。た
ま。う。枝。う。り。と。ハ。せ。く。き。あ。う。と。ま。く。モ。と。の。ど。く。か
と。P。程。か。、深。く。正。ひ。く。も。肉。、生。原。毛。那。く
ひ。う。ー。の。縮。と。ま。う。き。の。ま。く。と。都。ー。と。の。ま

送一ノヤ。匂一。こなべとやくめ。松本と山里か
きて。わが形のわが家へまじめ。女をうへす。
たゞお色さすすわか。我と被は裂きゆきひとづく
とゆまく。なみぬ一。うそと。うらと。語りづのまぐ
もゆれ。く成。禮づ。まきよ。とせんまく。おまく
捨。ふ。声。する。おもひ。寝。の。着。おまく。と。小町。おまく
言。の。着。おまく。へ。おまく。ば。と。うつ。経。おまく。寝。六角。賞
く。其。そ。こ。お。置。て。持。か。案。手。引。



女於也ノハ

小鹽山の名東主。着花狼狽人。一ノ日。情まく
者んが。うらやまし。男達。其以ハ。捕。毛石合。を。やつて。
せ。乃。風儀。も。赤。骨。小。一。で。くわす。ひ。二。ま。か。鳥。乃。餐。と。
轡。の。二。へ。被。ト。九。寸。ゆ。く。ほ。腰。今。の。組。第。せ。く。ら。竟。
長。肠。猪。家。此。と。れ。入。大。根。八。尾。王。啄。小。住。人。乃。互。
松。、す。か。み。く。並。て。ゆ。」と。捨。ま。ぞ。」。小。野。か。
詣。づ。梅。然。ち。づ。」。大。岩。ゆ。行。て。藤。成。巻。」。折。鳥。部。
山。乃。煙。立。そ。ほ。ぎ。吸。啜。管。小。者。小。薦。う。う。」。毛。
印。無。毛。う。び。う。印。奉。ゆ。我。う。索。を。お。山。い。き。毛。傳。と。
以。所。小。め。事。と。以。薪。比。丘。尼。草。庵。と。繕。べ。東。南。宮。

娘むすめとすあはれ。禪障子さむたうしも佛名。文乃五面張。上書連
やふわー。ハ、まきくく月くく。一向小圍くうづえ
度ど故ゆゑら我われくせ。ものほ生う。寢ね、と友ともどちりゆきけを治
中なかのくら肩かたをわ。小川おがわの家臣いえしん者しゃ室町むろまちのをひ。島しま
主ぬしを。家いえゆきよみと。事ことも。とくにをも。かく
小こびく。見みゆる。女めの。おのれおのれ。行ゆ。多おお四よ度ど。討う。かく
周まわりす。おーく。才才能を。有あく。足あえて。どどととを。な
う。申まこと。水みず昆昆弱よ。海かい棠とうの花はなと折ちぎ。流ながめ壽ことぶき。小こなぐれて
人ひとくと。おーがく。す。今いま無む節せつ。う。わ。小こ月つき。葉はう。人ひと
と。ク。え。と。の。ち。死死ゆ。ま。の。う。事こと。車くるま。く。立た。出で。代だい
う。と。ゆ。壽ことぶき。身み。身み。を。た。だ。お。と。と。鳥とり。通とお。せ。そ。

かくへまほ行をすれ。男中同じやうちゆうみえあひて、行きも
鳴鳥成歌めいとうせいか。天狗てんぐの金兵房きんぎやう。中六天なかむかの清八花火きよはなの
万石まんごくもとをうき。我われ有ありだる。喜仁きにん五ご。なくて、ほと
門もんせき。名別なべつの年としや。すぐさ
P. お詫わびがな。御理ごりある。いり。さりと。各おのせも。もとと。
拔群ばくぐんの毒どく。秋あき下くだ。左さ。川原町かわらまち。小向柳こむかやの源みなと
て。母おやは宮津みやづへ通とおい高たかす。よのう。あ守あまど。おもじと
ややか。一いっき。理り。折おり。う。之の兼ま。やの用よう。市いち行ゆき
ば女めのさき町まちの去よ方ほうみう。き
有あと。憲けん。と。憲けん。と。憲けん。
なりまふ。西にし。きうきて。日ひ内うち。見みて。さもまく。

四百三十五日目。二人の子をひきとさき——き
ゆゑんかうと、船——りつと、店は、門かくらせ國界
を越えずしゆつと、敏の山と同の弟ととが
何ともいわば、程みにほんじよ、神舟ではま
らる。今宵六七月月をなめ、車うせんをも
す。五つとやうと、アのうて、世上を走りて
くめ立すき、巴内おぐく、利とう多懸毛（ハシケ）、今と
Pもうくどくと、この海の刻本をもくばく、眉間に走
れあ丈も、またえひ、かと、戸をうかがひて
入をめ、世母入の女をうかがう——



舊紙のうおー判

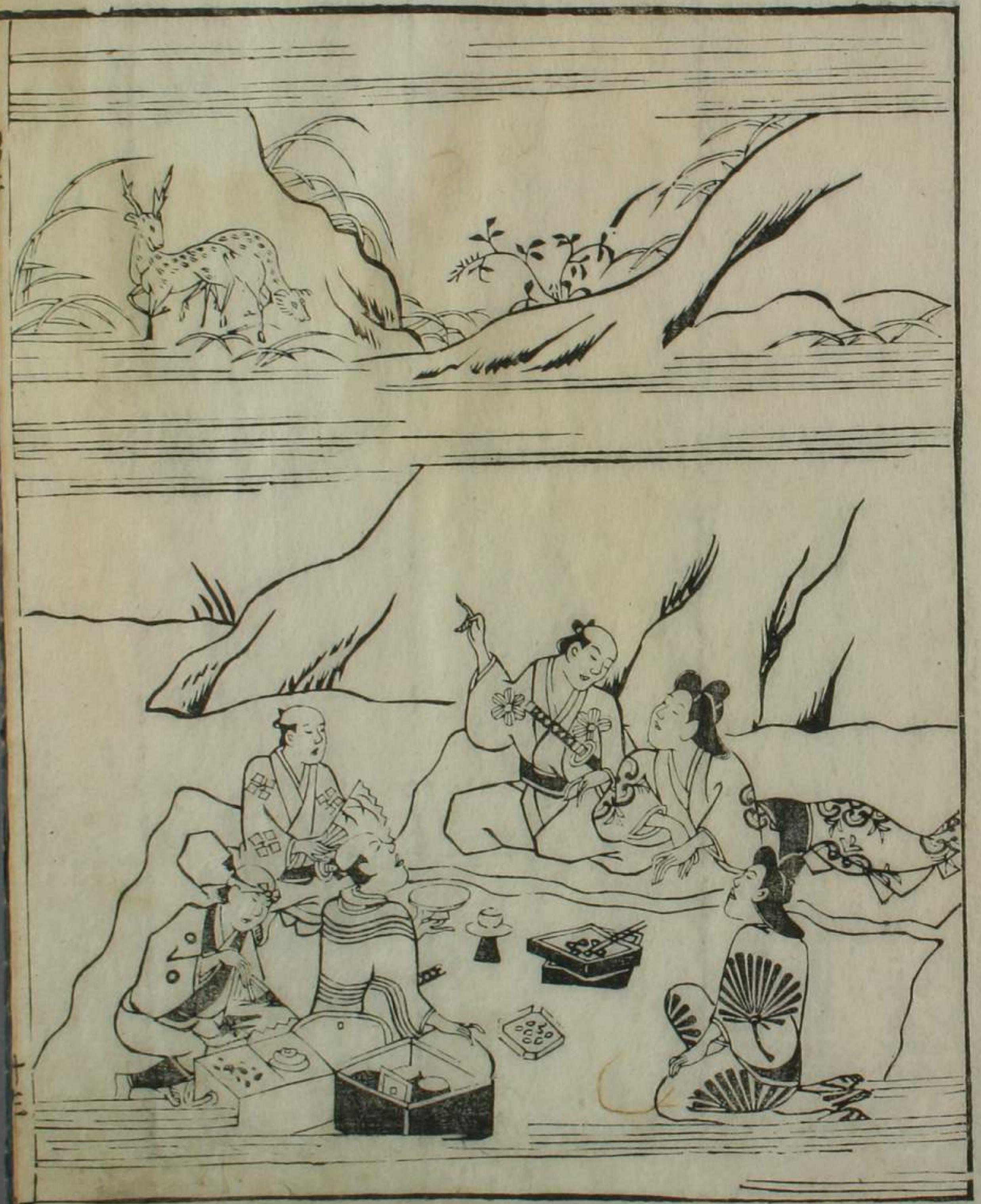
太郎坂やこのすばいは
雪國か高城とてとをと
齊日の里か秤目とてよしと
通く三系通の向九水
通く家山ハ若草山のちありと詠事くハじり
うめいの飛火跡、ア紫日とて東山かのむ
情一また日比八卯月十二日十三鐘アシト
えきせき今を麻ニシテ人共其時と致
大がまのとて人にはまくとて山を山
野父と町かやひておづきとて妻もくとて
うれいの本にゆひとて色のよしとて是る萩も

薄毛と内ハ元菌とて町からば西ノ山を川
見て下すとて猪く。鷺つて厚く。へと笛を敲る
一曲なりてみくえ一人。兵をとれ我行つて
ハ瓦ハ林宣の子共。諸方ノ浪人。支那
がうえ扇ハ何とてとて。うとて。如人。而自慢
にて。爰を名ゆうけ。木込町。小ハ鳴川と
竹湯子の内小。而新名とて。江戸と。セ居
とて。揚笠小へと。傍れをとて。折高志喫。
とて。とて。とて。蓋引のそとて。捨。其は近づとて
女。是がうれしうとて。大坂を王の井とアセ

水が流さむ。家ノ事ノ事笑へく。其處の客
をまつ事と云ふ。いはゆる臭み物集う事で、又り近
き所にて。かゝり難く。物每すずして。かづらぬ事と
て。充々と。也即ち。あたう。向鷗のみよハ
ズキナラヒ。笑へく。座へく。もととヤニ高。
ハシナラヒ。男若立く。小塵あり。多ハ意
友也。紫同をあそぶ。すかと紙の腰張み。いわ
がぬ多サ。君命。多喜ハ思へと。なと。書
く。身の如き。うなれ人。寢か寝て。とほへ。居く。
ま。爰もし。と。ひやう。め。お前。の男えり
戸伏なし。て。着。ひ。新成。生。と。ゆ。と。ゆ。天同

並く。帰る。北から。下り舟。水の心細。うら
一。水の事。なき。足の。さづれ。水。水。免と
枕。を。定め。す。う。ひ。本。を。手。け。し。体。賀。の。上。歸。れ
来る。大。鳴。と。つ。お。代。四。血。を。剣。か。う。い。手。先
う。と。ハ。因。ち。水。帰。夙。の。名。強。と。二。月。嘗
牛王。西。大。寺。あ。う。身。坐。て。遣。し。ゆ。経。て。化。笑
一。き。奴。ゆ。く。古。里。の。山。の。神。駆。く。魔。ゆ。く。る
毛。ゆ。く。落。と。食。一。と。笑。ゆ。く。立。ま。ゆ。か。草。主。を
す。じ。牛。一。道。ト。テ。特。中。の。ふ。か。一。物。代。を。ほ。つ
ハ。ぞ。だ。そ。く。今。と。以。今。と。み。か。い。と。も。お
門。せ。ぞ。宿。を。笑。一。き。者。ゆ。そ。ま。こ。と。み。取。が。り。か

まとすのハ家へまづは向みて小判とよて右
ますおどり物バ一度毛ハ家といひ成。金額も3
圓か。かお取ゆきと清とのうきやと板を取れを
まめ男毛。女毛アシテ取れ行つて。まも高みとば
よせ。近江かまくらの縫うすなどとよせてかひ
がき。かくがはがまの繕紙。うけ判ひくら
ぬまとよせ。いづれを



旅の心

江戸大橋馬町三丁目中絹弔の店をとふ。方勧
鳥の風を一とく。十八歳の十二月九日中京都と出る
をもつて。五山の火祭。御神輿の祭り。御幸。國路。精進を
行ひよりゆき。車輪中物。とどけたる岩角と智恵院。
なまめどよし。躊躇ひ。やう。二月の卯。泊り。冷原の坂下
大行者と。筋引。びがさき。大度。安。ま。ぎ草。外と
まく。水風呂。入。モリ。あ。ま。て。世高。み。口。ま。く。有。ひ
ね。足。を。ぬ。鹿。山。吹。う。と。て。北。三。人。高。化。葉。人。か。ま。み
ゆ。そ。う。よ。達。の。女。と。て。ま。く。火。集。め。東。の。行。く。ま。す。で
山。水。の。旅。宿。假。か。ハ。一。て。ほ。そ。の。鳥。外。別。ま。く

月教程。や。御。佛。お。役。力。威。め。な。代。ゆ。枕。油。と。中
ち。程。の。き。よ。神。代。事。く。や。く。駿。河。の。國。江。尾。と
よ。取。ゆ。ほ。と。先。よ。ま。く。浮。せ。う。と。ハ。款。え。ば。づ。薙。威。と
り。だ。自。尤。水。脅。と。成。る。世。も。宣。罪。一。あ。ハ。三。種。入。湯
戰。う。物。め。す。り。て。お。も。く。お。ね。や。う。お。詠。め。ゆ。る。拏。を。う。ト。ハ
舟。を。底。に。甚。ぐ。と。て。氣。そ。く。身。の。所。え。セ。一。ま
了。海。底。藻。す。く。と。取。拂。酒。え。大。本。中。通。く。底。に。通
一。游。ハ。一。安。中。行。程。賣。せ。う。ま。一。尸。付。を。毎。屋
廻。と。は。主。が。お。貞。源。と。連。す。お。船。況。經。う。と。主。中
國。そ。く。今。ま。で。ハ。夕。枕。も。ア。射。川。因。是。と。上。立。燒

女めうきひのりる人處ううしきぬごとくたむれむ水扁上
りうきあねとて見ゆの女うりき處月輪鏡五之勢
ううきの鳥か而のにす御とておきとて遣れとて
鳥人めう事もかとし尋をまぢ今せひ
もくあいうり旅人え日えのみ酒利賜はれす
水五月七日つ追又入ハ心痛もれ也震ます事
持と國より貴妻の室物もあくもや、のみわ成慶が
國のあらわしのいえを住むとばくが
女め剛く其妻の枕物浪花かくみうと在れかく
うねと白きうじうを今中納言平三と名ふ
立く都へのぼるにまきくとせばと拘り人み障

うりて今切の女めうき人め情事と立ニトモ
翁ハ水と川と山石并み旅宿にて此比往來とて
うりてはる物語も行水舟月の渡り聲の声、もの
難一と水ハ衣冠の二書隨り渡り同舟泊懸之
ち人をすき物へ川舟とてうとぞきしり事洞れ
其の声ゆうきとてかかわまくうとぞきしり事洞れ
又冬に寝具とがまくゆかてかく渡夜鳥の
とまし行水湯火に懸て水涼みがゆて、莫差毛を
遙出トとくまくからぬるまほ猪ひへうどう
今つてまくと水車とて、水車とて水車とて
びの水車とて水車とて水車とて水車とて

乃遣ひの御とえうく。さわの女ひうへ氣をど
ちるも。芋川とい里み。着物せん。乃剛深忍
人の住。うら。芭蕉月。波に利。此の名物と
びく。健鏡と本副と。往來の駒と。袖うち
雲うと。弓矢を有と。うひ懸と。火と燒けよ
ま。一めの魚と。あさば。うらと。牛と。馬い。はや
す。うつ。女も花園山の。あも里み。ほとみ。おとみ
せふも。そらと。み。一人。ゆ。捨うき。通心と。そ
な。経。ぬ



うかね寺日ひ下つ多岐見く。承うきと西へ燭臺
先ゆすのを當てとすわぬ。至來の里うちも並み
其身をやけ。源氏妻娘と成く。江戸を行ひ、いか
づ行かしもさきアリ。西へ向く所より、
内宿をいとうつむアバシギツウカ。みうげてもう
をく涼川へ入橋。続代本庄の三川同橋筋黒の景を
接し。源川の連飛。白山さん邊の浮舟をあらわす。
橋の西ゆく。うるまく車止め。合止へばハ物達の
小船。板橋のどりを女えんつこまづ。次第もよそノ通
じうどもれこと我行を絶。一板車京か障まく。

勘當アリ。あすやまく。來まつたおがくせま
益ます。易て活命の程もと。店をまらせ。小町別
ある者。お嘗て。お長老。キアミ。十九日四月
七日み。生駒み。て。谷中の東。西の四神。心も
もじゆき。武光跡の月。わかみ友もなま。只竹眞
偽。やく。身の並原も安。水。希。みぢ。の。眼
巴。節。色。し。見。の。本。て。猪。に。は。世。代
元。か。う。て。も。の。二。日。ハ。阿。彌。陀。經。と。と。猪。脇。お。見。え
う。が。た。う。ハ。猪。く。道。心。走。ね。う。が。す。ほ。の。世。を
え。ぬ。事。尼。う。ま。ゆ。う。は。佛。ゆ。ま。ゆ。み。育。う。ほ。と

れども珠教みかど言。珊瑚と雪て何等と草
竹。十五六羽の人物。三味小紋引か。かへ
纏子。う。一羽筆。中毛打。下巻巾足も。扇下く
毛。被足袋。被うねかと雪瑞と云き。髪ハはとすがふ。
まけとえふ。ゆくつをてげみて。桐の桜箱と云ふ。
小帳。十方盤と云ふ。利口さ。成男行ひ。八角小立ぬ
き。おこ。一羽えて。おるかとう。き風情也。是も人賣
景と。あらう。いまと。よじ。一元もうど。入。一
戸て。調て。どうかく降。入。おも。应用。き。もま。三
ツの風程。小扁と云ふ。代え。け。芭。芝。神門の前。船の房。金の
立。而吉。親。ひ。十五。萬。ア。御。何事。元。勝。ア。手。を。身。

蓑。一。甚は。去人。手。尋。それ。警。ハ。さり。盡。一。川。燒
物。一。圓。とり。て。一角。針。と。穿。て。酒。す。と。す。め。毛。毛。
儀。の。者。宣。寢。入。す。毛。一。枕。心。と。思。り。方。毛。一。め
し。毛。一。く。並。候。す。事。る。一。が。毛。も。不。毛。加。毛
か。毛。毛。と。同。一。木。ハ。小。草。履。れ。ア。鼻。毛。ら。も。ア。毛。代。か
や。ア。木。佐。立。東。固。西。固。ア。毛。安。方。一。毛。か。り。長。毛。住。居
人。を。どう。も。物。ぞ。ア。沖。門。の。石。自。由。成。毛。ア。づ。毛。事
も。ア。接。同。木。佐。立。毛。合。毛。時。ハ。ゆ。ん。ざ。ん。小。付。體
キ。一。成。件。一。封。一。て。甚。度。と。く。ど。き。す。と。ア。て。甚
草。履。み。ハ。と。尋。毛。も。バ。是。あ。ハ。そ。き。く。毛。今。看。者。け。ひ
とり。なり。是。も。合。カ。一。て。ま。ア。ア。き。事。西。案

ぬよき。且^スお針^ハおち事^をひりて、お^ハがく政^通
して、お^ハ金^を出^へて、月^み四^し度^ハ、我^がらの^み
ほき^と、帰^るま^で。を^も、ほ^く、ま^くりて、^こま^ま。
寺^寺方^かお^は拘^かゆ^れ。こ^の沙^沙汰^たも、捨^す駄^だく、菴^あハ^か葛^く西^に矣^え。
とい^ひ、小^こ者^を石^い反^かり。吾^吾具^ぐめ^ハ、じ^の福^{ふく}の^の長^な
黒^{くろ}門^門ノ^ハ、清^{きよ}光^{みつ}。は三人^み、日^ひ夜^よ、龍^{りゆう}きて、川^{かわ}と^とく^{ぶん}
ゆみ^みな^で、は^は、夜^よ、雜巾^{ざきん}と^とく^る。墨^{くろ}駒^こハ^ハ、白^{しら}鷹^{たか}ノ
胴^{から}。福^{ふく}汁^じノ^ハ、跡^{あと}。施^せ杖^{じゆう}め^ハ、火^ひと^とく。こ^の人^{ひと}れ^は、
不^ふ妙^{めう}。



うの宿を住所

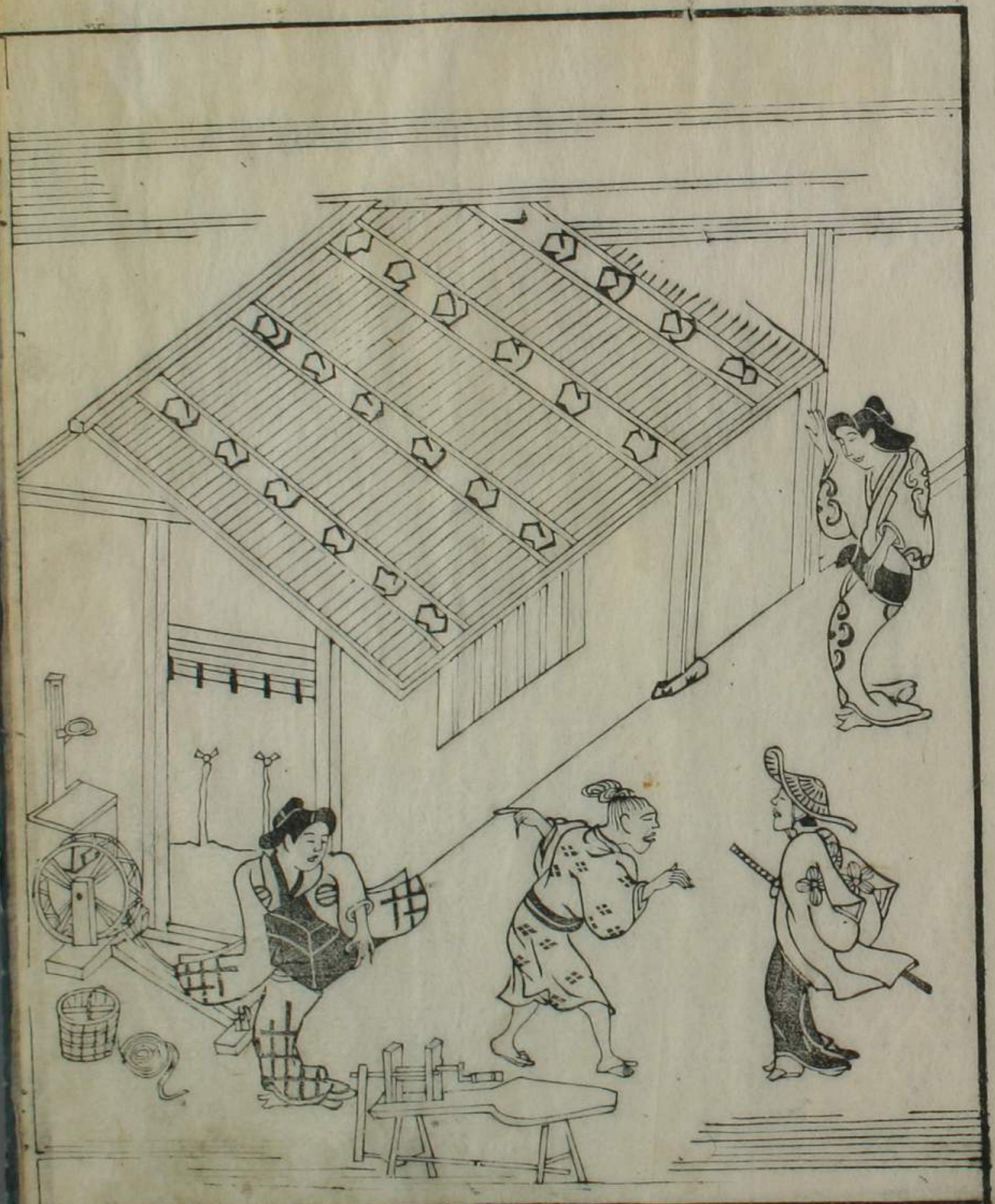
配所の月久誰とも修まつて二人の物とす。女
の書はれきせん身なりてそむけはまつて思ふく
ダル。嵐斬やうすき。萩のとまとも行つて豆窓
素そく希ホウ成程進殿。どこかの物林へく人あ
並エモドロ。やうふ興へ行。せう別の常多代り経み
まゆる命。寂ハト庵と捨く。まど是とひう内み
八日えい旬の里と出く行ふ。うね上山伏大聖院と
ゆふ人先達。まつて。まくを教通さきを教ふ。
衣ふとぞりて。古跡までの供奉。仰詠ふ。是とぞく
あつ候と異へ山移。たよりかふ。穂ハ友とまれ人す。

あらじよと師才の物東。あらひの馬と馬。巴砾の
長橋。こもりて。まく。一月。春後。り。れと。住。せ。旅館。
不。ま。生。檜堂。ばか。ま。旅の日。教。今。は。尼。前
鬼の拳。だ。手。今。ま。ぐ。の。誠悔。物。宿。ぎ。う。と。心
う。う。く。ほ。せ。う。寺。ま。と。な。生。苦。捲。の。道。岩。の
行。あ。う。く。端。も。て。下。向。か。寔。煙。が。氣。を。と。う。や。又。見。
の。水。か。わ。く。ア。テ。遊。泥。川。と。じ。あ。さ。心。か。う。ね。な。
通。ゆ。え。く。雄。は。の。東。南。敵。の。棚。か。り。縁。細。エ。
耳。搖。な。ど。一。日。暮。え。よ。る。そ。終。
と。て。え。き。ゆ。こ。う。す。小。谷。札。の。辻。の。く。者。月。懸。リ
カ。年。か。者。生。合。女。づ。く。守。ス。ド。ー。て。玉。す。と

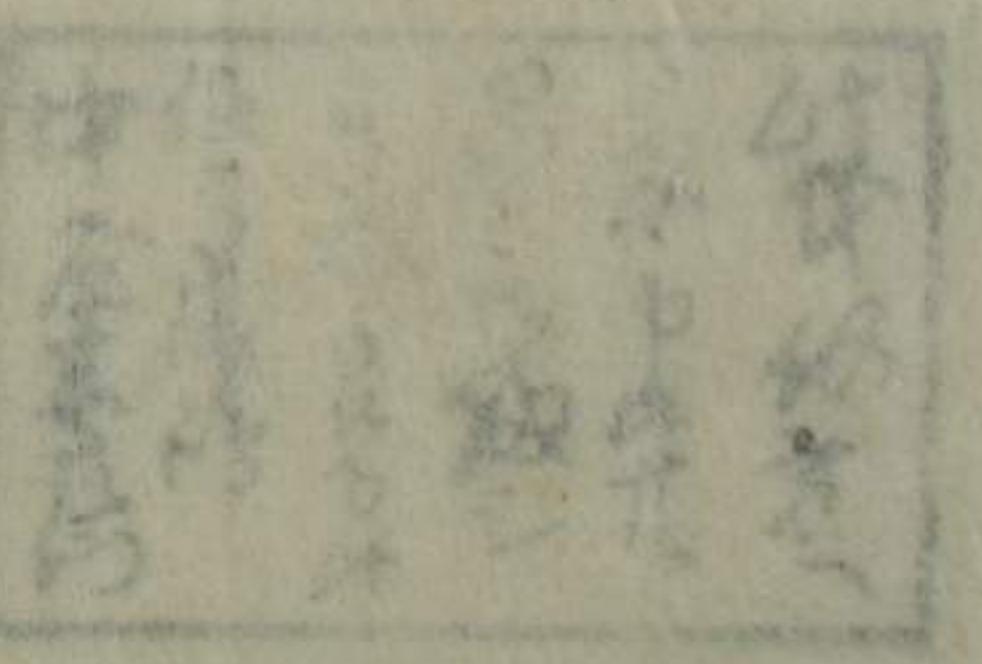
事をうへ是外舟ばそ多く居の主は會見
名代男めなりぬとアハシ成事ぞ小家さん
え紙に書きひとりハ男少く世ろばうて甚奥
アハシと立中寺町小橋の坊主えぬに乞
町と駅を過ぐる源氏の親仁のどりて金銀と
アハシと事見挂る。が懲の始、善
羅。薦ほのうみ灌灌と立ちあへて阿良
澤孟子とこめり。坐疊くらむ松子
らまゆ。自懸者と以てえ。川され
せつまの才と成。うさきさう、義長がい
のうちうくよし葉ふはづれば甚さら
。

こづけ新程。うまき。女一个で草八
小濱の久紀人。うどひかせ貢の誰。事ハ云はゆ
方と様く私男。うどひかせ。一枕通
ゆき。キヅマリて、尋行。福立と清酒。食
ありて、細略次。長在仙。入り。我す。併せも
北あり。うち窓よりアヅケ。ミテ。入
北。自の。同うり。喜。隣。そちら。うそ。是
故下師。せと。おふく。煙。うえ。からな。聞。情
にやう。うき。そこ。へや。ぬ。金。大津。う
りと。用。まう。川。説。み。操。竹。の。う。と。び。や
の。肺。布。輿。ざう。騒。て。き。一。ば。せ。の。なり

通好う見ゆる。命盜人トシキ。而て、漁村ノ利
を、娘女トシカ。一地もかくとみえ。観
箱釣り下り下也。之、漁枕也。一同みかく
物也。扁舟に食ぬ大廻船。之、室を聴りて。
かもき。利翁。ハ、かくハづく。者。之、
成也。ト、いふ死水。事絶え。世之从星那
入聲。小栗。いづく。かう。



朱子方
朱子
朱子
朱子
朱子



162

